

三島由紀夫書誌

佐藤秀明・山中剛史・久保田裕子 編

はじめに

この『三島由紀夫書誌』は、「受容史——そのためのエスキス」を巻頭に置き、1「年譜」、2「参考文献目録」、3「著書目録」、4「上演作品目録」、5「映画化作品目録」、6「放送作品目録」、7「音声・映像資料目録」、8「逸文目録」、9「翻訳作品目録」、10「著者名索引」から成り立っている。

これらの目録は、『決定版三島由紀夫全集』（新潮社、全42巻・補巻1・別巻1）が記載・収録しなかった、あるいはできなかったデータを収録したものである。『決定版三島由紀夫全集』は2000年（平成12年）11月から2006年（平成18年）4月まで刊行された。この全集には、刊行時において可能な限り詳細で正確な書誌データが記載された。しかし、刊行開始から四半世紀近くの時が流れ、完結後からでも20年近い年月が経っている。

この間、三島由紀夫の新たな著書が刊行され、編集時には気づかなかった未収録作品や書簡や音声・映像資料が発見され、演劇や放送や映画の分野では大へん多くのアダプテーションがなされてきた。また、三島由紀夫について書かれた図書、論文、記事、回想、解説、紹介文などのいわゆる参考文献は、膨大な数に上っている。『決定版全集』にも「主要参考文献目録」はあるが、分量が多すぎて主要な文献に限定せざるをえなかったという事情があった。本書の「参考文献目録」は、収集し得たすべての参考文献の情報を整理し収録した。

本書の「著書目録」、「上演作品目録」、「映画化作品目録」、「放送作品目録」、「音声・映像資料目録」、「逸文目録」を担当した山中剛史は、「逸文目録」を除き『決定版全集』でも同じ目録を作成し、その後も継続的に資料収集に努めてきて、ここに新たなデータを収録した。

三島由紀夫の人気は、1970年（昭和45年）の死以降も、『決定版全集』の完結後も衰えを知らず、むしろ高まるばかりで、とりわけ多くの翻訳を通して海外での受容が高まっている。そのため以前から「翻訳目録」を作成していた久保田裕子が、『決定版全集』にはなかった「翻訳作品目録」を加えることになった。海外の読者や比較文学研究に資するために、そのデータを提供しようと考えたのである。

三島由紀夫を「死後に成長する作家」と呼んだのは文芸評論家の秋山駿だが、その「死後に成長する作家」と言われる実態を編年体で示したのが「年譜」である。本書の「年譜」は三島の生涯を扱った既存の年譜に対して、生前の事項を簡略にし、むしろ没後

の事項に重きを置いたものにした。「参考文献目録」と「年譜」は、佐藤秀明が担当した。

编者として願うのは、本目録を活用して、多くの方々が、三島由紀夫の全体像や作家像に迫り、三島作品の読解や研究・批評の構築、資料探索・収集、編集、出版、翻訳、図書館業務、演劇上演、あるいは二次創作に役立ててもらえたらということにほかならない。

記述については細心の注意を払いましたが、疎漏や表記ミスなどがあれば、ご教示を賜りたくお願い申し上げます。

2025年（令和7年）3月
佐藤 秀明

目 次

受容史—そのためのエスキス	(4)
年 譜	1
参考文献目録	55
著書目録	859
上演作品目録	873
映画化作品目録	917
放送作品目録	923
音声・映像資料目録	927
逸文目録	931
翻訳作品目録	949
著者名索引	1053

1 生前

▶ 大人を驚かす文章

三島由紀夫の最初の熱心な読者は、母の倭文重^{しづな}だった。幼児期から小中高時代を経て大人になっても、書いたものは母に見せていた（『仮面の告白』も！）。「英霊の声」（『文芸』1966・6）も、平岡倭文重は原稿で読んでいる。13歳のときに書いた「酸模——秋彦の幼き思ひ出」（『輔仁会雑誌』1938・3）を読んだ倭文重は、「もう口がきけなくなるほどあっけにとられました」（平岡梓『倅・三島由紀夫』文芸春秋、1972・5）と述懐している。おそらくは手すさびの遊びに近い気持ちで書いた小説、を母が驚嘆したことで、公威は書くことの喜びを知り、得意な気持ちになったにちがいない。

書き物で大人を驚かすことは、学習院中等科で文芸部に入ってから、文芸部の上級生である坊城俊民や東文彦に作品を見せたときにも、「文芸文化」の清水文雄に「花ざかりの森」を見せたときにも、密かに働いた心理だったのであろう。ものを書く動機に他者を揺さぶるそのような企みがなければ、凡庸な文章で終わってしまう。文章を書く人には、終生つきまとう欲望である。終戦後の雑誌「人間」の編集長木村徳三から作品の欠点を指摘されると、「目の色変えて原稿をひったくるようにして」持ち帰り、書き直した原稿を「鼻をあかしてやると言わんばかりの目つきで」突き出したというの（木村徳三『文芸編集者 その発音』ティービーエス・ブリタニカ、1982・6）、三島らしい態度である。文章で読む人を驚かせることは生涯変わることはなかったが、作家として認められるようになるに従い、落ち着いてくる。

▶ 欲動と内面の隠蔽

そういう書き物の中で、14歳のときに書いた「館」（『輔仁会雑誌』1939・11）はやや異質な作品である。ある公国の領主に仕える扈從^{こしゅう}だった老人が、主人の残虐ぶりを回想した話である。いまとなつては、ここに公威の残虐趣味が露呈していることがわかる。『仮面の告白』にも書かれるが、三島由紀夫には、人や自分が傷つき血を流すことに官能的な快楽を覚える傾向があった。その欲望が表れたのが「館」だが、谷崎潤一郎の『盲目物語』ふうの語り^{ふうの語り}の技巧を凝らし、校内雑誌に不穏な欲望を書くことへの警戒感も見られる。掲載誌「輔仁会雑誌」の「編輯後記」には、「H・N」の署名

で「中三、平岡の「館」中等科にもかゝらず、堂々と高等科に伍して居る。／其の筆はのび〜と走り、留る処を知らない。好漢須く自重し大成を期せられん事を望む」と書かれ、奇矯な性癖は見逃された。続稿として書かれた「館（第二回）」は発表されず筐底に秘された。

「館」は、11、2歳の頃、初めて自分で選んで買ったオスカー・ワイルドの『サロメ』（岩波文庫）の残虐性に触発されて書いた小説だと思われる。大人を驚かすより、書かすにはいられない欲動に促されて書いたものだが、結局公威の作品はこの傾向には進まずに、「館」と「縄手事件」（未発表）くらいで止めた。そしてワイルドに入れ替わるようにして公威を夢中にさせたのは、レイモン・ラディゲの『ドルヂェル伯の舞踏会』だった。このあたりの創作動機については、鈴木ふさ子『三島由紀夫 海の詩学「花ざかりの森」へ』（鳥影社、2024・11）に詳しい。心理の動きの精緻な分析と描写を身上とする堀口大學訳の『ドルヂェル伯の舞踏会』に魅せられた公威は、「心のかゝやき」（未発表）や「彩絵硝子」（『輔仁会雑誌』1940・11）を書き、作者自身の内面の投影を窺うるのである。そして、リルケの影響と日本の古典文学の素養とをつき混ぜた「花ざかりの森」（『文芸文化』1941・9～12）でも、その語り手は、作者らしさが仄めかされるものの虚構の語り手として造形され、公威の内面はやまとことばの文体に融け込んで見えにくくしている。こうして作者との紐帯を切断した、あるいは曖昧にした物語の書き手として、平岡公威は終戦を迎え、戦後の復活しつつある文芸雑誌に作品を持ち込むことになる。

▶ 「肌に合わない」という反応

題材にはバリエーションがあるものの、極度に意識的で人工的な文章を書く気取った学生作家に対して、戦後の文壇は冷たかった。「中世」「煙草」「岬にての物語」「サーカス」「彩絵硝子」の原稿を持ち込まれた筑摩書房の「展望」編集部では、臼井吉見が「肌に合わない」けれども「一種の天才」だと言ったところ、顧問の中村光夫が「マイナス百五十点だ」と言って全部没にしてしまった（中村光夫・臼井吉見「対談現代作家論（5）三島由紀夫」『文学界』1952・11）。戦後民主主義の上に立つ戦後文学は、ロマンチズムの戦争協力への反省から、外界と内面のリアリズムが求められたから、三島の文学志向に基づく作品は相容れなかったのだ。川端康成を通して「人間」の木村徳三に「煙草」を拾ってもらい、川端には長編『盗賊』（真光社、1948・11）の序文をもらったものの、木村も川端も三島作品の肌合いを温存させ、戦後の出発を遅らせてしまったと見ることができる。『盗賊』はラディゲ張りの心理小説で、作者の内面は見えない。

「夜の仕度」（『人間』1947・8）について高見順が「彼が書いている小説は、彼自身の生きることと何の関係もない、そういうところから生ずるうまさに対して疑問

1925年(大正14年) 0歳

1月 14日、東京市四谷区永住町2番地(現・新宿区四谷4丁目22番)の自宅で生まれる。父・平岡梓は、明治27年東京生まれ、第一高等学校、東京帝国大学法学部を卒業し農商務省に勤務。母・倭文重は、明治38年、東京生まれ。開成中学校校長・橋健三の次女。家族は、元樺太庁長官で各種の事業を興していた祖父の平岡定太郎と、大審院判事・永井岩之丞の長女の祖母・夏子。祖父が公威と命名した。

3月 この頃、祖母の夏子が倭文重から公威を引き取り、自室で育て始める。

1928年(昭和3年) 3歳

2月 23日、妹・美津子が誕生。

幼時の公威は、夏子から外で遊ぶことを禁じられ、夏子のそばで夏子を選んだ近所の女の子とだけ静かに遊ぶ。夏子は座骨神経痛の持病があり、臥せていることが多かった。

1930年(昭和5年) 5歳

1月 19日、弟・千之が誕生。自家中毒に罹り、仮死状態になる。

1931年(昭和6年) 6歳

4月 8日、学習院初等科に入学。主管(担任)は6年生まで鈴木弘一。四谷の学校まで母が送り迎えをする。初等科時代は欠席が多く、「青びょうたん」「白っ子」とあだ名される。

1933年(昭和8年) 8歳

3月 この頃、四谷区西信濃町16番地に転居。

8月 祖父母が2、3軒離れた家に転居、公威は両親弟妹と離れ祖母と暮らす。

1934年(昭和9年) 9歳

5月 定太郎が明治天皇の親筆と偽った書売り、逮捕される。

1936年(昭和11年) 11歳

2月 26日、二・二六事件が起こり、登校したものの休校となる。

1937年(昭和12年) 12歳

3月 30日、学習院初等科を卒業。

4月 8日、学習院中等科に進学。この頃、両親が渋谷区大山町15番地に転居し、公威を引き取る。祖母に毎日電話し、週に1回は泊まりに行くことが条件だった。中等科に入ると、国語担当の岩田九郎に作文の才能を認められ、成績も上がる。

10月 父が農林省営林局事務官として大阪に単身赴任する。この頃、文芸部員で高等科の坊城俊民が、「輔仁会雑誌」に投稿された公威の詩に興味を持ち会いに来る。以後、約3年間毎日のように文学に関する手紙のやり取りをする。

1938年(昭和13年) 13歳

1月 初めての小説らしい小説「酸模」を書く。3月の「輔仁会雑誌」に発表。

9月 ノートに詩集『木葉角鴟のうた』『聖室からの詠唱』を編む。1941年まで盛んに詩を作る。

1939年(昭和14年) 14歳

1月 18日、祖母・夏子死去。享年62歳。

3月 戯曲「東の博士たち」と詩を「輔仁会雑誌」に発表する。

7月 ノートに詩集『公威詩集I』を編む。

1940年(昭和15年) 15歳

1月 28日、ノートに詩集『Bad Poems』を編む。

2月 俳句1句を「山樞」に発表。「山樞」は淡々亭(山路閑古)主催の月刊俳句雑誌。この年から翌年にか

1938年(昭和13年)

(無署名) 《編集後記》 輔仁会雑誌 161 1938
年3月 酸

1939年(昭和14年)

(無署名) 《編集後記》 輔仁会雑誌 164 1939
年11月 館

1941年(昭和16年)

署名(は) 《後記》 文芸文化 4・9 1941年9月
花①

1943年(昭和18年)

富士正晴 林富士馬の詩 文芸文化 6・8 1943
年8月 花①

1946年(昭和21年)

高山毅 《文芸時評》作家の思想(→08・10) 日
本文学者 3・1 1946年1月 菫
高山毅 《創作月評》(→08・10) 新人 1946年8
月 煙
彪原砂 《創作月評》現代の世相(→08・10) 文
明 1946年8月 煙菖
柴田鍊三郎 《文芸時評》(1) 自虐する精神の位
置(→08・10) 三田文学 1946年9月 煙
伊藤整 新人論——新人的なもの(→73・6、08・
10) 書評 1 1946年12月
上林暁 最近の雑誌小説 西洋文学ずれ(→08・
10) 日本読書新聞 1946年12月4日 煙岬
渡辺一夫 《文芸時評》文体の必然性 門前読経
(下) 東京新聞(夕刊) 1946年12月1日 岬

1947年(昭和22年)

(無署名) 《作品月評》個性の開花(→08・10)
新小説 1947年1月 岬
署名(O) 《創作展望》(→08・10) 新文学
1947年1月 岬
逸見廣 《文芸時評》作家の素顔と作家の扮装
(→08・10) 新文学 1947年2月 岬

山本健吉 《創作短評》三島由紀夫「中世」
(→08・10) 人間 2・3 1947年3月 中②

川端康成 《期待する人々》——三島由紀夫君
サンデー毎日増刊 1947年4月15日

本多顕彰 新人について(→08・10) 新小説
1947年6月 岬

平田次三郎 現代の小説——時評風に(→08・10)
三田文学 1947年11月 軽

豊島與志雄、高見順、中島健蔵 《創作合評会》
(夜の仕度)(→70・4、08・10) 群像 2・11
1947年11月 夜①

野間宏 《文芸時評》(下)(→08・10) 東京新聞
(夕刊) 1947年10月17日 夜①

(無署名) アプレゲールの人々・文学の巻(7)
コクトオに会いたい——三島由紀夫 文化新聞
1947年10月29日

北鬼助 貧しい収穫——今年の新人について
(→08・10) 中京新聞 1947年12月23日

林房雄 図書『我が毒舌』(文芸日報) 銀座出版
1947年12月 夜①

1948年(昭和23年)

丹羽文雄 《文芸時評》(→08・10) 文学界 2・
1 1948年1月

浅見淵 終戦後の新作家について(→08・10)
東国 1948年2月 煙岬

尾崎一雄 《文学時感》作家・作品の印象——その
他 丹項 1948年4月

青山光二 《創作月評》(盗賊)(→08・10) 文芸
時代 1948年5月 盜

(無署名) 《グラビア》三島由紀夫氏 アサヒグ
ラフ 1948年5月12日

十返肇 戦後新人展望(→08・10) 中部日本新
聞 1948年5月10日

高山毅 新進作家論(文芸時評)(→08・10) 青
年論壇 1948年6月 春①

署名(中天狗) 《文芸時評》天狗草紙 石川達三、
丹羽文雄、舟橋聖一、三島由紀夫などをめぐって
文学草紙 9 1948年7月

十返肇 《文芸時評》(→08・10) 時事新報
1948年7月10日 慈

十返肇 第二の新人群(→08・10) 夕刊北海夕
イムス 1948年7月11日 頭宝

青野季吉 《文芸時評》戦後作家の弱さ
(下)(→08・10) 夕刊新大阪 1948年7月14
日 宝

田邊茂一 《文芸時評》(→08・10) 世界日報
1948年7月21日 慈

単独の著書

潮騒(新潮文庫920 み-3-7)

ISBN978-4-10-105007-2

2005年10月20日122刷改版

新潮社

362円(税別)

文庫判 213頁 カバー(デザイン/新潮社装幀室) 帯

▷潮騒 解説(佐伯彰一) 年譜

英霊の声 オリジナル版(河出文庫 み15-1)

ISBN4-309-40771-4

2005年10月20日

河出書房新社

本体650円

文庫判 268頁 紙装 カバー(カバーデザイン/榛地和、カバー装画/粟津潔、カバーフォーマット/佐々木暁) 帯

▷英霊の声 憂国 十日の菊 二・二六事件と私 解説「英霊の声」の声(藤田三男)

岬にての物語(新潮文庫2501 み-3-26)

ISBN978-4-10-105026-3

2005年12月20日20刷改版

新潮社

本体552円(税別)

文庫判 398頁 カバー(デザイン/新潮社装幀室) 帯

▷苧菟と瑪耶 岬にての物語 頭文字 親切な機械 火山の休暇 牝犬 椅子 不満な女たち 志賀寺上人の恋 水音 商い人 十九歳 月澹 荘綺譚 解説(渡辺広士)

サド侯爵夫人/朱雀家の滅亡(河出文庫 み15-2)

ISBN4-309-40772-2

2005年12月20日

河出書房新社

本体720円

文庫判 272頁 紙装 カバー(カバーデザイン/榛地和、カバー装画/秋山正+F.ブーシェ、カバーフォーマット/佐々木暁) 帯

▷序 サド侯爵の真の顔(澁澤龍彦) サド侯爵夫人 跋 朱雀家の滅亡 後記 解説「幕切れ」のせりふ(藤田三男)

ラディゲの死(新潮文庫2678 み-3-29)

ISBN978-4-10-105029-4

2006年1月25日17刷改版

新潮社

本体552円(税別)

文庫判 377頁 紙装 カバー(デザイン/新潮社装幀室) 帯

▷みのもの月 山羊の首 大臣 魔群の通過 花山院 日曜日 箱根細工 偉大な姉妹 朝顔 旅の墓碑銘 ラディゲの死 復讐 施餓鬼舟 解説(野島秀勝)

対談集 源泉の感情(河出文庫 み15-3)

ISBN4-309-40781-1

2006年2月20日

河出書房新社

本体920円

文庫判 429頁 紙装 カバー(カバーデザイン/榛地和+中野耀子、カバーフォーマット/佐々木暁) 帯

▷美のかたち(小林秀雄) 大谷崎の芸術(舟橋聖一) 二十世紀の文学(安部公房述) エロチシズムと国家権力(野坂昭如) 文武両道と死の哲学(福田恆存) 演劇と文学(芥川比呂志) 七年後の対話(石原慎太郎) 文学は空虚か(武田泰淳) 日本の芸術 歌舞伎(坂東三津五郎) 新派(喜多村緑郎) 能楽(喜多六平太) 長唄(杵屋栄蔵) 浄瑠璃(豊竹山城少掾) 舞踊(武原はん) 解説「素面」の「告白」(藤田三男)

*単行本版収録19篇の対談から、「現代作家はかく考える」(大江健三郎)、「新人の季節」(石原慎太郎)、「ファシストか革命家か」(大島渚)、「劇作家のみたニッポン」(テネシー・ウィリアムズ)、「歌舞伎滅亡論是非」(福田恆存)、「捨身飼虎」(千宗室)の6篇を割愛し、新たに「文学は空虚か」(武田泰淳)を収録。

三島由紀夫文学論集1(講談社文芸文庫 みF2)

ISBN4-06-198439-X

2006年4月11日

講談社

本体1300円(税別)

文庫判 308頁 紙装(デザイン/菊地信義) カバー 帯

▷太陽と鉄 小説家の休暇 「われら」からの遁走 私の中の「男らしさ」の告白 精神の不純 わが非文学的生活 自己改造の試み 実感的スポーツ論 体操 ボクシングと小説 私の健康 私の商売道具 解説(加藤典洋) 年譜・著書目録(佐藤秀明)

*編集/虫明亜呂無

三島由紀夫文学論集2(講談社文芸文庫 みF3)

ISBN4-06-198442-X

2006年5月11日

講談社

本体1300円(税別)

文庫判 343頁 紙装(デザイン/菊地信義) カバー 帯

葵上

創立二十五周年記念演劇人祭

1975年8月28日 東京・国立劇場小劇場
 演出／ミヒヤエル・ミュンツァ 演奏／パー
 ター・クラマーとそのオーケストラ
 出演／バルバラ・シュテア、ミヒヤエル・ミュン
 ツァ、イリス・シューベルト、バルバラ・ドレス
 ハイムディーケ
 ＊独語上演
 ＊菊池寛作「父帰る」英訳上演などと併演

ACMリーディングシアター4

2002年10月11～14日 水戸・水戸芸術館ACM劇場
 演出／子安真
 出演／塩谷亮、佐藤信郎、子安真、名取哲、遠島
 立夫ほか
 ＊「熊野」と併演

シアター…イン・プログレス公演「三島由紀夫
近代能楽」

2003年3月30日 横浜・宝積寺テラノホール
 演出／テリー・ヘイクス
 出演／岩崎あかね、大木章、久末冴子
 ＊「卒塔婆小町」「班女」と併演

シアター…イン・プログレス公演「三島由紀夫
近代能楽」

2003年5月5日 東京・大田区民プラザ
 演出／テリー・ヘイクス
 出演／岩崎あかね、庄島信宏、久末冴子
 ＊「卒塔婆小町」「班女」と併演

シアター…イン・プログレス公演「三島由紀夫
近代能楽」

2004年3月27～28日 東京・中目黒アスマラ
 演出／テリー・ヘイクス
 出演／久末冴子、齋藤拓、布施玲奈
 ＊「班女」「卒塔婆小町」と併演

シアター…イン・プログレス公演「三島由紀夫
近代能楽」

2004年9月18～19日 北軽井沢・ドームパラダイス
 太陽の子供たち
 演出／テリー・ヘイクス
 出演／大矢純子、齋藤拓、布施玲奈
 ＊「班女」「卒塔婆小町」と併演

シアター…イン・プログレス公演

2004年9月26日 東京・東中野スタジオV

演出／テリー・ヘイクス
 出演／大矢純子、齋藤拓、布施玲奈
 ＊Live Pointers #7での公演

M.M.S.T公演

2005年8月12～13日 東京・THE GUIDE
 2005年8月16～17日 大阪・JUNGLE in→
 dependent theatre
 2005年8月21日 富山・利賀芸術公園リフトシ
 アター
 演出／百瀬友秀
 出演／伊藤恵、大崎美穂
 ＊富山公演は、利賀演出家コンクール2005参加

JIPAS演劇&ピアノライブ 三島由紀夫とシヨバ
ン一花陰に大砲

2006年7月22日 東京・草月ホール
 演出／針生琳太郎 所作指導／西川一馬 照明／
 進藤直子 音響／奥野竜史 ピアノ／山根悟郎
 出演／針生琳太郎、湯浅桃子、大山大輔
 ＊「熊野」と併演

第七劇場公演

2006年11月6日 東京・学習院女子大学和[やわら
 ぎ]ホール
 構成・演出／鳴海康平 照明／島田雄峰 音響／
 和田匡史
 出演／阿竹花子、久保田芳之、平佐喜子、西尾文、
 洪明花
 ＊「班女」と併演
 ＊学習院女子大学主催「感劇市場2006」参加

山口小夜子‘あ・お・い’

2006年12月16、26日 東京・パラボリカ・ビス
 舞台監督／中原和彦 映像／掛川康典、生西康典
 音響／稲荷森健 効果／高野論
 出演／山口小夜子、山川冬樹

シアター…イン・プログレス公演「三島由紀夫
近代能楽」

2007年4月30日 千葉・浦安市文化会館
 演出／テリー・ヘイクス
 出演／小林明日香、布勢克享、布施玲奈

シアター…イン・プログレス公演「三島由紀夫
近代能楽」

2007年5月27日 東京・中目黒アスマラ
 演出／テリー・ヘイクス
 出演／小林明日香、布勢克享、布施玲奈
 ＊「班女」と併演

映画化作品

美しい星

製作／「美しい星」製作委員会 企画・制作プロダクション／リクリ 企画・製作幹事・配給／ギャガ

2017年5月26日封切

カラー 127分

監督／吉田大八 脚本／吉田大八、甲斐聖太郎
エグゼクティブプロデューサー／小竹里美 Co.
エグゼクティブプロデューサー／松下剛 プロ
デューサー／朴木浩美、鈴木ゆたか 撮影／近藤
龍人 美術／安宅紀史 照明／藤井勇 録音／矢
野正人 編集／岡田久美 音楽／渡邊琢磨

出演／リリー・フランキー、亀梨和也、橋本愛、
中嶋朋子、佐々木蔵之介ほか

*2017年12月6日、ギャガよりDVD、DVD豪華
版、Blu-ray/DVD豪華版発売

*シナリオは「シナリオ」(2017年7月)掲載

命売ります

映画化タイトル／售命 Life For Sale

製作／老頑童娛樂有限公司

2022年4月29日台湾国内封切

カラー 106分

監督・脚本／鄧仲謀 制作／王関立

出演／傅孟柏、曾之喬、蔡淑臻、李銘忠ほか

*台湾映画、日本未公開

*2022年12月23日、原創娛樂股份有限公司より
DVD発売、翌年Blu-ray DVD発売(日本未發
売)

三島由紀夫モデル作品

11・25自決の日 三島由紀夫と若者たち

製作・配給／若松プロダクション、スコレレ

2012年6月2日封切

カラー 119分

監督／若松孝二 脚本／掛川正幸、若松孝二 音
楽／板橋文夫 撮影／辻智彦、満若勇咲 照明／
大久保礼二 録音／宋晋瑞 編集／坂本久美子
衣裳／宮本まさ江 プロデューサー／尾崎宗子
企画協力／鈴木邦男

出演／井浦新、満島真之介、岩間天嗣、吉澤健、
寺島しのぶほか

*第65回カンヌ国際映画祭招待作品

*2013年1月25日、アミューズソフトエンタテ
ィメントよりDVD発売

*掛川正幸・若松孝二「完成台本」は、若松孝二
監修『若松孝二 11・25自決の日 三島由紀夫と
若者たち』(游学社、2012年6月)に掲載

三島由紀夫ドキュメンタリー作品

みやび 三島由紀夫

製作／「みやび 三島由紀夫」製作委員会 配給／
パンドラ

2005年10月1日封切

カラー 74分

監督／田中千世子 撮影／川上皓市 録音／中山
隆匡 美術／星埜恵子 編集／富田伸子 音楽／
梅林茂 制作／フィルムヴォイス

出演／平野啓一郎、関根祥人、野村万之丞、坂手
洋二、柳幸典ほか

*2007年11月、ワックよりDVD発売

三島由紀夫VS東大全共闘 50年目の真実

製作／映画「三島由紀夫VS東大全共闘」製作委員
会 配給／ギャガ

2020年3月20日封切

カラー 108分

監督／豊島圭介 企画プロデュース／平野隆 プ
ロデューサー／竹内明、刀根鉄太 音楽／遠藤浩
二 撮影／月永雄太 録音／小川武 編集／村上
雅樹 制作プロダクション／ツイングジャパン

出演／三島由紀夫、芥正彦、木村修、橋爪大三郎、
篠原裕、東出昌大(ナレーター)ほか

*2021年2月26日、TBSテレビよりDVD発売

追補分／＊＝追加情報

純白の夜

製作・配給／松竹

1951年8月31日封切

*シナリオは「シナリオ」(1951.7)に掲載

*未ソフト化だがCS衛星劇場にて一部欠損のまま
放映歴あり

夏子の冒険

製作・配給／松竹

1953年1月14日封切

*シナリオは「映画評論」(1952.8)に掲載

*未ソフト化だがCS衛星劇場にて一部欠損のまま
放映歴あり

につぼん製

製作・配給／大映

1953年12月8日封切

映
画
化
作
品

放送作品

新劇アワー第37回「ラジオドラマ 偉大な姉妹」

新日本放送（製作／東京支社）
1952年5月22日 22時30分～
脚色・演出／矢代静一
出演／長岡輝子、芥川比呂志ほか

百万人の劇場「灯台」

フジテレビ
1960年6月5日 22時～22時45分
脚色／松浦竹夫
出演／三津田健、杉村春子、仲谷昇、谷口香、賀原夏子

音楽のおくりもの 歌劇「卒塔婆小町」

NHK-FM
1970年4月2日 19時～20時
作曲／石桁真礼生 指揮／山岡重信 演奏／プロコルデ室内楽団
出演／桐生郁子、滝沢三重子、小田清ほか
*石桁真礼生作曲「女の祈り」も放送

芥川咄「潮騒」

文化放送
1974年7月29日～8月2日（全5回）
脚本／和泉二郎 プロデューサー／江頭正巳 音楽／深町純 効果／玉井和雄
出演／芥川隆行、鈴木弘子
*8時30分から9時30分までの番組「お元気ですか 芥川隆行です」内のコーナーとして放送

TBSラジオ図書館 潮騒

TBSラジオ
1982年7月26日 20時～20時55分
脚色／白石宏一
出演／麻生えりかほか

SUNTRY THEATER ZERO HOUR「美しい星」

J-WAVE
2004年4月19～23日（全5回）24時～24時30分
出演／藤原竜也

テレビ朝日開局50周年記念ドラマスペシャル「鹿鳴館」

テレビ朝日
2008年1月5日 21時～23時9分
監督／藤田明二 脚本／鎌田敏夫 音楽／吉澤巖
出演／田村正和、黒木瞳、石原さとみ、松田翔太、

柴田恭兵ほか

FMシアター「命売ります」

NHK-FM（製作／NHK名古屋）
2016年6月11日 22時～22時50分
演出／福井充広 脚色／宇治田隆史 音楽／土井宏紀
出演／中島歩、山田真歩、赤沢ムック、川本麻里那、原智彦ほか

連続ドラマJ「三島由紀夫 命売ります」

BSジャパン（製作／「命売ります」製作委員会）
2018年1月13日～3月24日（全10回）21時～21時54分
監督／金澤友也、河原瑠、石井満梨奈 脚本／小山正太、大林利江子、加藤公平、神田優 音楽／瀬川英史 制作／BSジャパン、テレバック
出演／中村蒼、前田旺志郎、YOU、田口浩正、田中泯、美輪明宏（ナレーション）
*地上波ではテレビ東京にて同年4月3日～6月6日まで深夜に放映された

追補分＝*追加情報

東西傑作文学「美徳のよるめき」

TBSラジオ
1968年9月9日～10月5日（全24回）毎週月～土曜日、10時20～40分
脚色／和泉二郎
*音楽／坂田晃一
*出演／岩崎加根子、大出俊、牧逸夫、上田恵司、北浜晴子、芥川隆行



放送作品

1. 肉声資料

「朝日ソノラマ」(1960・1)

- 1960年1月10日
朝日ソノプレス社
360円
ソノシート6枚綴込み型雑誌
▷1960年の展望(聞き手・鰐淵朗子)
*目次には三島の名前は記載されていないが、複数のソノシートが綴じ込まれている形態で刊行されていた雑誌「朝日ソノラマ」創刊二号のソノシート1に、岸信介らと共に収録
*三島の部分は1分10秒

歌舞伎名優名場面集5

- 2013年4月3日
日本コロムビア〈COCJ37935〉
2100円(税抜価格2000円)
CD ケース ブックレット 帯
▷椿説弓張月(上の巻)
*監修/竹内道敬
*ブックレットに、台本(上の巻)、解説(竹内道敬)掲載

2. 音声資料

怪談傑作集五

- 1995年7月19日
東芝EMI(耳で聴くKIKU文庫)〈TOCZ-5161〉
2000円(税抜価格1942円)
CD/カセットテープ ケース ブックレット(ジャケット画/泉岳道 デザイン/神谷真紀)
▷新聞紙(朗読/田島令子 音楽/角田圭伊悟)
*監修/吉行淳之介
*ブックレットに、作品解説(菊田均)掲載
*ほかに江戸川乱歩「断崖」、河野多恵子「箱の中」、吉行淳之介「あいびき」を収録

朗読日本文学大系 現代文学編3

- 2002年
ソニーミュージックハウス〈FZCZ4461-4〉
17600円(全8巻セット価格)
▷真夏の死(朗読/蟹江敬三)、「三熊野詣」(朗読/小林勝也)
*解説CD大河内昭爾「海外に飛躍する日本文学の最高峰」(FZCG70093)付属
*全8巻セットに解説冊子
*セット函、解説CDはソニーミュージックハウ

ス表記だが、朗読CD自体は新潮社表記

*同様の内容で通信販売された複数のバージョンがあるようだが未見

あの声優が読むあの名作

- 2010年7月29日
マガジンハウス
本体1500円(税別)
A5判変型(148×178mm) 93頁 カバー 帯 CD
▷金閣寺(抄)(朗読/石田彰)
*監修/齋藤孝
*付録CDに「金閣寺」を含む全18作の朗読収録
*「金閣寺」朗読は約5分、本冊には朗読箇所掲載

ことばとメロディー

- 2013年3月1日
C Dur〈CDUR-3001〉
2000円(税抜価格1905円)
CD ケース ブックレット 帯
▷心(朗読/小口ゆい 作曲・ピアノ/西田由美子 ヴァイオリン/西田博)
*ブックレットに詩「心」掲載
*他に与謝野晶子らの詩の朗読と音楽を収録

戦後作曲家発掘集成～TBS VINTAGE J CLASSICS～2

- 2015年12月16日
日本コロムビア〈COCQ-85275〉
15000円+税(全8枚セット価格)
CD ケース ブックレット セット函
▷ラジオのためのオペラ《あやめ》
*1960年11月27日CBC中部日本放送で放送
*監修・ブックレット解説/片山杜秀

黛敏郎電子音楽作品集

- 2019年3月20日
スリーシェルス〈3SCD-0041〉
税抜価格2778円(+税)
CD ケース ブックレット 帯
▷理髪師の術学的欲望とフットボールの食欲との相関関係(作曲/黛敏郎) 1オリジナルバージョン(朗読/黛りんたろう、電子音復元/磯部英彬) 2電子音を鐘の音から生成したバージョンB(朗読/黛りんたろう、電子音復元/磯部英彬) 3オリジナルバージョン(カラオケ) 4バージョンB(カラオケ)
*他に「0系新幹線チャイム」など全45曲収録
*ジャケット裏面に歌詞掲載
*ブックレットに西耕一「プロデューサーノート」、磯部英彬「『理髪師の術学的欲望とフットボールの食欲との相関関係』の再現について」、

小説

恋文

朝日新聞

1949年10月30日関西版・西部版

▷当該紙に掲載されたまま埋もれていたものが、発見にいたる経緯と作品解説である斎藤理生「三島由紀夫「恋文」の位置」を伴って「新潮」(2021年5月)に再録された。その後、編者の調査で同作品はメキシコの「日墨新聞」(1951年3月21日)に再録されていることも判明した。

評論、エッセイ、推薦文、談話等

言ひがかり的抱負

新夕刊

1947年6月29日

▷「新発掘全集未収録随筆」と題して、坂口安吾作品とともに、「新潮」(2024年7月)に斎藤理生による解説とともに再録された。新人作家の創作の抱負をテーマにして依頼されたもの。発見と収録については、「三島由紀夫22歳の抱負」(「朝日新聞」2024年6月9日)でも封じられた。

豆自伝

中京新聞

1948年9月13日

▷斎藤理生「『豆自伝』」(「三島由紀夫研究22」2022年4月)にて、初出紙面の写真紹介、斎藤による解説とともに活字化再録された。

僕は白痴美を

新婦人

1949年11月

▷「若い殿方はこんなお嬢さまがおすき」というコーナーに池部良、小畑実らと共に寄せたものだが、最初の三分の一は取材者の弁で、残りが三島の談話のような体裁となっている。まとまりがありタイトルもある体裁上、逸文とは言い難いかもしれないが立項しておく。

中村芝翫

芸術祭参加師走興行大歌舞伎プログラム

1949年12月

▷昭和24年12月の東京劇場での歌舞伎興行筋書の「歌舞伎俳優素描」コーナーに寄稿。中村芝翫が六代目中村歌右衛門を襲名するのは翌年4月。

別れも愉し

東京日日新聞

1950年4月1日

▷昭和24年秋から「東京日日新聞」家庭欄に連載されたコーナー「女性相談と抗議」における、投稿者からの相談「帰省後、男がへん」への回答。他の回答者として、加藤シズエ、河盛好蔵、阿部艶子、平林たい子らの名が見える。その後このコーナーは東京日々新聞文化部編『女性の抗議』(養徳社、1950年9月)として単行本化され、三島の回答文も収録された。

策馬

読売新聞

1950年10月30日

▷「趣味」欄に、馬と一緒の写真と共に掲載。学習院や終戦後の乗馬経験について書いている。

無題(大岡昇平「新しき俘虜と古き俘虜」推薦文)

同書(創元社)帯

1951年4月

▷大岡昇平「俘虜記」終篇として刊行された同書の帯に、小林英雄の評とともに掲載。

ブラジル案内

埼東文化

1982年10月

▷四百字詰め原稿用紙九枚。写真版掲載と共に活字化され、染谷洸「三島由紀夫「ブラジル案内」について」および入手経緯を記した豊田長子「三島由紀夫と私」が掲載された。原稿には、右肩に「別冊文春」と記され、その脇に「ゲラは自宅宛にお送り下さい」と三島自筆で添え書きがある。豊田は豊田三郎の姪で、昭和27年夏に出した三島へのファンレターを機縁にして原稿を入手したという。原稿には「別冊文春」と記されているが、発表された形跡はない。昭和26年暮れからの世界一周旅行でブラジルに立ち寄った時のことを書いている。

『愛の渴き』の踏査

豊陵会報

1953年9月15日

▷「特別寄稿」として掲載。初出誌は大阪府立豊中高等学校の同窓会組織「豊陵会」会員向けの同窓会誌の復活第一号で、「編集後記」には「三島由紀夫氏の特別寄稿は多田勝彦君(高三)の御好意によるものである」とある。内容は、「愛の渴き」の執筆動機からモデルとなった豊中市熊野田の取材旅行についてであるが、紹介者の多田氏については不明。この取材旅行については、他に「大阪の連込宿―「愛の渴き」調査旅行の一夜」(『決定版全集27』)がある。

翻訳作品目録

原題	翻訳作品名	言語	翻訳者	出版地：出版社	刊行年	収録書名 (シリーズ名)
愛の渇き	Atash lil-Hobbu	アラビア語	Mohamed Eitani	Beirut: Dar Al-Aadab	1988	
愛の渇き	Sete d'amore	イタリア語	Lydia Origlia	Parma: Ugo Guanda Editore	1988,1999	(Le fenici tascabili, 3.i narratori)
愛の渇き	Thirst for love	英語	Alfred H.Marks	N.Y.: Alfred A.Knopf	1969	
愛の渇き	Thirst for love	英語	Alfred H.Marks	N.Y.: Berkley Books	1970	(A Berkley medallion book)
愛の渇き	Thirst for love	英語	Alfred H.Marks	London: Martin Secker & Warburg	1970	
愛の渇き	Thirst for love	英語	Alfred H.Marks	Tokyo: Charles E.Tuttle	1970,2001	
愛の渇き	Thirst for love	英語	Alfred H.Marks	Harmondsworth: Penguin Books	1978	(Penguin twentieth-century classics)
愛の渇き	Thirst for love	英語	Alfred H.Marks	N.Y.: Perigee Books	1980	
愛の渇き	Thirst for love	英語	Alfred H.Marks	London: Vintage Books	2009	
愛の渇き	사랑의 목마름	韓国語	李元燮	서울: 中央日報社	1982,1984	사랑의 목마름・性的人間(오늘의 세계문학 9)
愛の渇き	사랑의 갈증	韓国語	송태욱	서울: 서커스	2007	
愛の渇き	사랑의 갈증	韓国語	이수미	고양: 빛소굴	2024	
愛の渇き	Διψα Για Έρωτα	ギリシャ語	Γιούρι Κοβαλένκο	Αθήνα: Εκδόσεις Καστανιώτη	1994	
愛の渇き	Sed de amor	スペイン語	Ricardo Domingo	Barcelona: Luis de Caralt	1974,1984	(Colección Gigante)
愛の渇き	Sed de amor	スペイン語	Ricardo Domingo	Madrid: Alianza Editorial	2007,2008	(El libro de bolsillo, Biblioteca de autor)
愛の渇き	Smäd po Láske	スロバキア語	Karol Kuřka	Bratislava: Tatran	1988	Smäd po láske,Príboj
愛の渇き	Žed za ljubavlju	セルビア語	Dragan Milenković	Beograd: Tanesi	2011	(Biblioteka Maboroši)
愛の渇き	愛的飢渴之歌	中国語	邱素臻	台北: 水牛出版社	1968	
愛の渇き	愛的飢渴	中国語	邱素臻	台北: 水牛出版社	1970	(水牛文庫 164)
愛の渇き	愛的飢渴	中国語	金溟若	台北: 志文出版社	1971,1974,1993	(新潮文庫 43)
愛の渇き	愛的飢渴	中国語	金溟若	北京: 作家出版社	1987	
愛の渇き	愛的渴求	中国語	游瑞華	台北: 正義出版社	1985	(日本文学,名著 5)
愛の渇き	愛的飢渴	中国語	游瑞華	台北: 星光出版社	1985	(雙子星叢書 328)
愛の渇き	愛的飢渴	中国語	游瑞華	台北: 星光出版社	1994	(日本經典名著系列 26)
愛の渇き	愛的飢渴	中国語	游瑞華	台北: 時兆出版社	1994	
愛の渇き	愛的飢渴	中国語	石榴紅文字工作坊	台北: 九大文化股份有限公司	1989	(日本文学 005)
愛の渇き	愛的飢渴	中国語	石榴紅文字工作坊	台北: 花田文化股份有限公司	1995	(日本經典文学大系 2)
愛の渇き	愛的飢渴	中国語	石榴紅文字工作坊	台北: 万象圖書股份有限公司	1997,1999	(三島由紀夫精選集 2)
愛の渇き	愛的渴望	中国語	楊槐	北京: 大眾文芸出版社	1992	愛的潮騷



【あ】

相川 高秋	88, 242	青野 季吉	65, 66, 67, 68, 70, 73, 76, 86, 91, 95, 178, 181	赤松 宏	540	阿久澤 騰	595
相川 宏	595	青目 海	841	赤松 正夫	257	アクセルバンク, A.	263
愛敬 浩一	333, 335, 705	青柳 いづみこ	555	赤松 靖	429	芥 正彦	182, 329, 503, 517, 518, 748, 847, 848
相沢 啓一	361	青柳 潤一	459	阿川 佐和子	541	芥川 比呂志	80, 81, 197, 204, 245, 269, 291, 306, 454
相沢 仁	440	青柳 孝雄	815	阿川 弘之	72, 92, 165, 198, 219, 296, 313, 365, 369, 428, 495, 505, 538, 544, 568, 609	芥川 瑠璃子	368, 538
相田 浩	213	青柳 勇次	257	安芸 宏子	637, 651, 680, 760, 771, 774	阿久津 斉木	619
会田 弘継	650, 667, 670, 799	青山 郁子	627, 641, 653, 676, 688, 703, 715, 726, 741, 746, 753, 757, 768, 780, 790, 817, 828, 838	安芸 遼介	475	アクーニン, ポリス	671
会田 誠	811	青山 健	354, 357, 363, 386, 452, 464, 475	秋草 俊一郎	687	浅井 雅志	386, 420, 712
会田 雄次	199, 229, 234, 250, 251, 263	青山 光二	65	秋島 百合子	420	浅井 美英子	176
愛知 揆一	118, 701	青山 伸二	206	秋月 恭子	104	浅井 律子	108
饗庭 徹也	99	青山 真治	597	秋田 明大	215	浅岡 年生	254
相葉 博	634	青山 新太郎	238	秋田 朋子	377, 402	浅丘 ルリ子	364
相原 和邦	240, 244, 261	青山 杉作	75	秋田 昌美	388	浅川 ルリ子	364
相原 朋枝	827	青山 孝行	221	秋田 満	521	浅川 新介	729
饗庭 孝男	132, 144, 145, 147, 150, 175, 182, 200, 216, 244, 256, 260, 265, 274, 276, 298, 303, 308, 321, 344, 353, 506	青山 千夏	720	秋田 壱郎	217	浅川 史	627, 639
青井 志津	449, 459	青山 七恵	696	秋津 建	296, 433	朝霧 カフカ	796
蒼井 優	688, 689, 690, 802	青山 絃一	654	秋津 道翁	810	朝倉 和子	751
青江 舜二郎	73, 96, 132	青山 昌弘	644	秋永 悦郎	112, 235, 244	朝倉 克己	696, 718, 761
青木 雨彦	344	青山 泰樹	489	秋庭 太郎	239	朝倉 喬司	435
青木 英治	193	青山 阿賀 猥	682	秋満 吉彦	830	朝倉 撰	138, 366
青木 敬士	595	赤井 浩太	792, 850	秋村 宏	239	朝倉 久会	500
青木 健	630	赤江 直美	738	秋本 藍	441	朝倉 瑠璃子	654
青木 さやか	757	赤江 瀑	508, 611	秋元 潔	356, 785	浅田 彰	375, 384, 394, 398, 417, 426, 451, 481, 488, 506, 533, 617, 740
青木 茂男	230	赤尾 敏	238	秋山 公男	515, 538, 540, 553, 556, 564, 586	浅田 次郎	451, 458, 469, 479, 483, 501, 523, 544, 562, 567, 581, 612, 616, 626, 633, 657, 660, 762, 766, 827
青木 茂	414	赤川 次郎	659	秋山 駿	156, 158, 162, 165, 173, 175, 176, 178, 182, 197, 208, 209, 212, 219, 220, 229, 245, 249, 256, 277, 284, 286, 293, 295, 296, 310, 316, 321, 347, 383, 384, 405, 448, 495, 511, 521, 535, 547, 560, 583, 591, 625, 679, 702, 712, 713	朝田 富次	397
青木 純一	398, 418, 426, 443, 454, 481, 596, 722, 762, 763	赤城 耕一	519	赤木 孝之	532	麻田 洋	228
青木 真弥	700	赤木 孝之	532	赤座 叡	269	麻田 実	844
青木 新六	593	赤坂 憲雄	404, 415, 474, 622, 679, 781, 792, 850	赤坂 憲雄	404, 415, 474, 622, 679, 781, 792, 850	浅沼 和典	225
青木 保	334, 397, 504, 511	赤坂 正浩	551	赤坂 正浩	551	浅沼 典彦	566
青木 利夫	69	赤沢 史朗	172	赤沢 史朗	787, 814	浅沼 璞	584
青木 尚哉	842	明石 佳洸	310	明石 佳洸	310	浅沼 美知雄	237
青木 正次	484	明石 建五	518	明石 建五	518	浅野 晃	141, 151, 211, 224, 235, 245, 250, 266, 270, 287, 330, 331, 336, 340, 352, 354, 360, 370, 374, 384, 392, 461, 528, 676
青木 正美	350, 355, 413, 426, 488, 533	赤瀬川 原平	378, 379, 506, 575	赤瀬川 原平	378, 379, 506, 575	浅野 麗	717
青木 るえか	592, 666	赤祖父 哲二	336, 446	赤祖父 哲二	336, 446	麻野 一哉	593
青島 清	760	縣 威生樹	281	縣 威生樹	281	浅野 典子	847, 848
青島 広志	454, 545, 547, 764	阿形 充規	855	阿形 充規	855	浅野 八郎	146
青島 幸男	197	県 洋二	587	県 洋二	587	浅野 秀満	187
青地 晨	165, 197	赤塚 不二夫	366	赤塚 不二夫	366	浅野 正美	650, 662, 679, 682, 696, 710, 722, 743, 755, 760, 764, 772, 794, 818, 851, 856
青沼 朱美	652	赤塚 行雄	172, 197, 212, 324	赤塚 行雄	172, 197, 212, 324	朝野 三次	112
青沼 陽一郎	580	「赤旗」特捜班	314	「赤旗」特捜班	314	朝野 美和子	359
		赤羽 秀之	738	赤羽 秀之	738	浅野 佳恵	375
		赤羽 康男	844	赤羽 康男	844		
		赤星 ジュリア	183, 202	赤星 ジュリア	183, 202		
		赤間 修	528	赤間 修	528		
		赤間 剛	348, 438, 444, 517	赤間 剛	348, 438, 444, 517		
		赤松 一男	668	赤松 一男	668		
		安芸 遼介	475	安芸 遼介	475		
		秋草 俊一郎	687	秋草 俊一郎	687		
		秋島 百合子	420	秋島 百合子	420		
		秋月 恭子	104	秋月 恭子	104		
		秋田 明大	215	秋田 明大	215		
		秋田 朋子	377, 402	秋田 朋子	377, 402		
		秋田 昌美	388	秋田 昌美	388		
		秋田 満	521	秋田 満	521		
		秋田 壱郎	217	秋田 壱郎	217		
		秋津 建	296, 433	秋津 建	296, 433		
		秋津 道翁	810	秋津 道翁	810		
		秋永 悦郎	112, 235, 244	秋永 悦郎	112, 235, 244		
		秋庭 太郎	239	秋庭 太郎	239		
		秋満 吉彦	830	秋満 吉彦	830		
		秋村 宏	239	秋村 宏	239		
		秋本 藍	441	秋本 藍	441		
		秋元 潔	356, 785	秋元 潔	356, 785		
		秋山 公男	515, 538, 540, 553, 556, 564, 586	秋山 公男	515, 538, 540, 553, 556, 564, 586		
		秋山 駿	156, 158, 162, 165, 173, 175, 176, 178, 182, 197, 208, 209, 212, 219, 220, 229, 245, 249, 256, 277, 284, 286, 293, 295, 296, 310, 316, 321, 347, 383, 384, 405, 448, 495, 511, 521, 535, 547, 560, 583, 591, 625, 679, 702, 712, 713	秋山 駿	156, 158, 162, 165, 173, 175, 176, 178, 182, 197, 208, 209, 212, 219, 220, 229, 245, 249, 256, 277, 284, 286, 293, 295, 296, 310, 316, 321, 347, 383, 384, 405, 448, 495, 511, 521, 535, 547, 560, 583, 591, 625, 679, 702, 712, 713		
		秋山 大輔	554, 555, 629, 641, 688, 693, 699, 732	秋山 大輔	554, 555, 629, 641, 688, 693, 699, 732		
		秋山 正	137, 591	秋山 正	137, 591		
		秋山 忠右	202	秋山 忠右	202		
		秋山 ちえ子	92	秋山 ちえ子	92		
		秋山 万沙子	208	秋山 万沙子	208		
		秋山 真志	576, 697	秋山 真志	576, 697		
		秋山 正美	422	秋山 正美	422		
		秋山 正幸	354	秋山 正幸	354		
		秋山 安三郎	120, 123, 129, 136, 137, 153, 163	秋山 安三郎	120, 123, 129, 136, 137, 153, 163		
		秋山 ゆり子	529	秋山 ゆり子	529		
		秋吉 茂	239	秋吉 茂	239		
		秋吉 大輔	756	秋吉 大輔	756		
		秋吉 妙美	545	秋吉 妙美	545		
		秋吉 良人	675	秋吉 良人	675		
		安居院 文男	132	安居院 文男	132		
		阿久沢 悦子	627	阿久沢 悦子	627		

編者略歴

佐藤 秀明 (さとう・ひであき)

近畿大学名誉教授、三島由紀夫文学館館長。著書に「三島由紀夫—悲劇への欲動」(岩波新書)、「三島由紀夫一人と文学」(勉誠出版)、「三島由紀夫の文学」(試論社)、編著に「三島由紀夫紀行文集」「三島由紀夫スポーツ論集」(ともに岩波文庫)など。「決定版三島由紀夫全集」編集協力。「三島由紀夫研究」(鼎書房)編集委員。

山中 剛史 (やまなか・たけし)

中央大学大学院ほかで非常勤講師。三島由紀夫文学館研究員。単著に「谷崎潤一郎と書物」(秀明大学出版会)、共著に「決定版三島由紀夫全集 42 書誌・年譜」(新潮社)、共編著に「混沌と抗戦—三島由紀夫と日本、そして世界」(水声社)など。「三島由紀夫研究」(鼎書房)編集委員。

久保田 裕子 (くぼた・ゆうこ)

福岡教育大学教授。研究分野は、日本近現代文学研究、女性作家研究、日本文学におけるタイ国の表象分析研究。共編著に「三島由紀夫小百科」(水声社)、「21世紀の三島由紀夫」(翰林書房)、「混沌と抗戦—三島由紀夫と日本、そして世界」(水声社)など。「三島由紀夫研究」(鼎書房)編集委員。

三島由紀夫書誌

2025年5月25日 第1刷発行

編者／佐藤秀明・山中剛史・久保田裕子

発行者／山下浩

発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

組版処理／有限会社デジタル工房

印刷・製本／株式会社平河工業社

© SATO Hideaki, YAMANAKA Takeshi,

KUBOTA Yuko 2025

不許複製・禁無断転載

<落丁・乱丁本はお取り替えます>

(三菱ダイヤブック使用)

ISBN978-4-8169-3047-8

Printed in Japan, 2025